

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400771		
法人名	社会福祉法人 叶福社会		
事業所名	グループホーム大東ヶ丘		
所在地	青森県五所川原市金木町芦野363番地141		
自己評価作成日	令和6年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和6年10月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

組織で処遇に対する年間計画の冊子(マニュアル)を作成し、毎年職員会議を開催して、全職員の共通理解を図っている。  
 利用者の地域支援として夏祭りや文化祭等に参加し、地域の方々に事業所の役割や機能をアピールしている。  
 利用者の支援として利用者と家族の触れ合う機会を設け、面会行事を実施している。  
 災害対策として毎月1回、避難訓練を実施し、うち1回は消防署立会いのもと、指導を受けている。  
 8月に夜間避難訓練を実施し、日頃から災害に対する体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム職員として看護師の配置はなく、重度化や終末期の対応は行っていないものの、母体施設の看護師から、日々の健康管理や急変時の対応等への助言を得て、変化の早期発見と適切な受診に繋がっている。また、利用者の状態変化に合わせ、適切な時期に、法人内の施設等へ住み替えを検討できるよう、支援している。  
 法人全体で古くから地域との交流を大切にしてきたことから、必要時は市の担当課や民生委員の協力も得ることができる環境であり、今後はコロナ禍の状況を見ながら、徐々に交流を再開していきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護職員が確認できるよう、玄関等に理念を掲げ、職員は理念の意味を理解し、日々のサービス提供に反映させている。	開設時に作成した独自の理念がある他、5項目からなる重点目標も作成しており、玄関に掲示する等して職員間で共有している。職員は理念や重点目標に込められた思いを理解し、利用者が安全に暮らせる環境作りに取り組み、地域と繋がりながら安心して生活していただけるよう、日々のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出や地域との交流を制限し、実施できていない。今年度より、母体施設と共同での夏祭りを開催した。	地域住民を招待して母体施設と合同で開催していた夏祭りや体育祭等は、コロナ禍で開催困難となっていたが、今年度は内部だけで実施している。町の文化祭に利用者の作品を展示したり、ボランティアや実習生の受け入れも積極的に行っていたが、まだ実施可能と判断できる状況になく、今後、感染状況を見極めて、徐々に再開していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、事業所の説明や生活状況、外部評価の結果等を報告している。見学や認知症に関する相談等の体制は整えられている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面での開催となっている。評価・要望・助言等については電話や書面で報告を受け、意見交換を行っている。年1回、自己評価及び外部評価の結果について、説明をしている。	コロナ禍で書面での運営推進会議が続いていたが、今年8月からは対面での開催となっており、メンバーに案内を送付して、電話で出席をお願いしている。会議ではホームの現状や行事、避難訓練等の活動報告の他、自己評価及び外部評価結果の報告も行い、出席者から意見や提案をいただきながら、業務に反映させるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を提出し、ホームの現状を報告する他、入居状況について、毎月報告を行っている。	市の担当課には毎月入居状況を報告している他、4ヶ月に1回発行する広報誌や、自己評価及び外部評価結果も提出している。市の担当課職員が運営推進会議に出席しており、情報交換をしたり、助言をいただいている。また、制度に関する情報等で疑問な事がある時は、電話で問い合わせたり、窓口に行く等し、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを整備し、職員に周知している。内部研修では身体拘束について正しく理解する機会を設け、取り組んでいる。	身体拘束廃止の委員会を設置し、運営推進会議でホームの現状確認を行っている他、マニュアルや指針を作成し、定期的に内部研修等を行いながら、職員の理解を深めている。職員は見守りにより利用者の外出傾向を察知し、必要時には一緒に散歩したり、畑を見に行く等している。また、無断外出があった場合は、敷地内にある法人施設から協力が得られる体制となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修会を実施し、職員の理解を深め、虐待の見過ごしがないように、日々のケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部の研修で学ぶ機会を設けており、今後もホーム内で理解を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書と契約書を基に、入居者やご家族等に十分に説明を行い、同意を得ている。思いや不安、困り事はいつでも相談できる旨を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望、不安に思っている事等については、玄関先に意見箱を設置し、思いに沿えるように努めている。	職員は日々の関わりの中で、利用者の意見を聞けるように努めている。運営推進会議の開催時には、毎回家族に出席の声をかけている他、面会時等には利用者の近況を報告し、何気ない会話からも、家族の意見や要望を汲み取れるように心がけている。また、意見や要望が聞かれた時は、早急に話し合いの時間を作って対応策を検討し、内容によっては本部にも相談しながら、改善に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営について管理者が一方的に進めるのではなく、職員会議やミーティングの時間等に、職員が意見を言えるような環境作りに努めている。	毎日の申し送りや月1回の職員会議等、職員が自由に意見交換できる機会を設けている。また、些細な事は業務の合い間を利用し、職員同士で話し合ったり、管理者に相談しながら、より良い環境作りやケアの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休暇や有給休暇を取得する等、就業環境は整備されている。職員がやりがいを持って働けるよう、環境整備にも取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の研修会の他、外部研修への参加機会を設け、研修内容は職員間での周知を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所との連携を通し、サービス向上に努めている。また、グループホーム協会にも加入しており、情報交換やネットワーク作りにも取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の段階で本人やご家族と面談し、関係機関からも情報を提供してもらい、信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人やご家族との信頼関係を築くことを意識し、努めている。また、本人・ご家族の不安や悩み等の情報は書面に残し、職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているニーズに対し、可能な限り柔軟な対応に努めている。他のサービスが必要であれば、紹介等の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で入居者のできる事に着目し、少しでも活躍できるように支援しながら、共に支え合うことを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ連絡を行い、日頃の様子等を報告している。また、情報を共有し、本人とご家族との絆が途切れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍も落ち着き、遠方のご家族や近所の方等も面会に来るようになった。入居者が知人らと電話をしたり、気軽に訪ねて来るよう、環境作りに努めている。	家族の他、友人や知人の面会も利用者の意向を確認した上で受け入れ、居室でゆっくり話をしてもらっている。職員は利用者へ届いた手紙を代読し、電話での返事を促す等、これまで関わってきた人との関係を継続していくように支援している。また、馴染みの場所や家を見に行きたいとの希望があれば、通院帰りに寄り道をする等、個別に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わりを持てるよう、職員が間に入り、話題を提供する他、会話の輪を広げて孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を大切に、必要に応じて相談や支援に努め、退居先へはサービス終了後も相談に応じる等、できる限り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族から情報を得たり、日々の関わりの中から思いや意向を汲み取り、その人らしく暮らせるように支援している。	日々のケアを通して利用者の表情の変化を観察し、何気ない会話からも思いを察するように心がけている他、入浴時等の1対1になった時に、ゆっくりと話を聞いている。また、家族が面会に来た時に情報収集したり、職員同士で気づきも話し合い、利用者の思いや意向の適切な把握に努め、ケース記録等に残して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から生活歴等の情報収集をし、入居後の生活に反映できるようにしている。また、日々の関わりの中から、情報を引き出せるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の一日の過ごし方や体調等を把握し、記録や申し送りにて情報共有を図り、サービス向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人やご家族の意見や要望等を引き出し、話し合いを基に介護計画に反映させている。状態が変化した際は随時、介護計画を変更している。	面会時や電話の際に、前もって家族から意見を聞いて記録に残し、利用者と担当職員、管理者の他、関係する職員でカンファレンスを行い、利用者一人ひとりの希望や現状に合った介護計画を作成している。また、介護計画は6ヶ月の期間を設定し、期間終了時にモニタリングや評価を行い、状態変化が見られた時には、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や健康状況等について記録し、職員間で共有する他、ケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況を把握し、ニーズに合ったサービスができるよう、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署への避難訓練の協力依頼の他は、新型コロナウイルス感染予防対策のために行っていないが、今後、再開予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の受診状況を把握し、これまでのかかりつけ医を継続した受診支援を行っている。医療機関との連携を図り、受診状況はその都度、本人やご家族に報告している。	入居時に既往歴やかかりつけ医を確認し、これまでの医療機関を継続できるよう、ホームで受診介助をしている。入居後に専門医受診が必要になった時等は、家族と相談して受診先を決め、適切な受診ができるように支援している。また、受診時に内服薬の変更等あった時は、すぐに家族へ電話で報告し、必要時には家族にも受診に同行していただきながら、情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が在籍しておらず、訪問看護ステーションとの連絡体制が整えられていない。しかし、入居者の急変時等には、すぐに協力機関に相談できる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はご家族と共に立ち会い、医療機関と情報交換を行う他、入院中は医療連携室に連絡を取り、状態把握や退院がスムーズに行えるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に対応していない旨を説明し、納得の上で契約をしている。日常的な健康管理や急変時の対応について、本人やご家族から要望等を伺い、事業所としての対応について、話し合いを行っている。	重度化や終末期の対応は行っていないことを、入居時に利用者や家族に説明し、了解を得ている。ホームでは日々、法人施設の看護師の助言を得ながら、利用者の健康管理に努めており、急変時の対応については、協力医療機関との連携を図っている。また、入居後の状態変化に応じて、随時、特別養護老人ホーム等への申し込みを提案したり、情報提供をしながら、利用者や家族が不安なく過ごせるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の対応も含めて、応急手当やその後の連絡、対応方法等に関する緊急時対応マニュアルを作成し、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え、昼夜を想定した避難訓練や設備機器の使用に関する訓練等を行っている。災害時の対応として、消防署等からの理解・協力が得られるように働きかけている。	避難誘導策及び緊急連絡網を作成し、母体施設と合同の避難訓練や防災機器の操作訓練、ホーム独自の訓練等、毎月避難訓練を行っている。また、災害時の備蓄品は、一括して本部の物置に保管している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格と尊厳を常に意識し、適切な対応に配慮している。守秘義務や個人情報の重要性を認識すると共に、プライバシーの保護にも努めている。	職員は利用者一人ひとりのペースに合わせて、尊厳に配慮したケアができるように努めている。また、利用者本人や家族が希望する呼び方をすることもあるが、その時々状況に配慮することを忘れず、プライバシーや守秘義務、個人情報の取り扱いについても十分に注意を払い、日々の業務を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人の希望に沿えるような対応を行い、意思表示ができない場合は表情や仕草を読み取り、思いを表せるような働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の行動を把握し、入居者一人ひとりの気分や要望に応じて、臨機応変に対応できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれについては、自らが楽しくできるようにしている。選択ができない方にも本人の好みに配慮し、清潔で快適な身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けや好き嫌いの相談をしたり、一人ひとりの食事形状や好みを合わせて提供している。配膳や片付けは手伝える方には手伝ってもらっている。	母体施設の栄養士が定期的に嗜好調査を行い、法人の畑で収穫した季節の野菜等も取り入れた献立を作成しており、禁忌食や苦手な物があれば、代替食を提供している。また、季節毎の行事食も提供する等、全ての利用者が食事を楽しみ、適切な栄養を摂取できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表により、食事や水分量は入居者の状態を把握できている。また、入居者一人ひとりの嗜好や嚥下機能等も考慮し、必要摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯の洗浄、うがいを促し、必要に応じて介助をしている。1日に1回、義歯洗浄剤を使用して、口腔内の清潔の保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表により、入居者の排泄パターンを把握し、入居者に合わせた適切な排泄誘導により、トイレでの排泄を促している。	利用者の日々の排泄状況を記録して全職員で共有し、パターンを把握しながら、可能な限りトイレで排泄できるよう、事前の声かけを行っている。また、体調や身体状況の変化により必要な時は、随時、職員間で支援方法や排泄用品の変更等について話し合い、利用者や家族の意向を確認しながら、その時々状況に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や果物等を朝食に取り入れたり、適度な運動、食事量等をチェックし、自然な排泄となるように働きかけている。便秘が続く入居者には、医師への相談のもと、下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴習慣や希望、体調や羞恥心に配慮し、できる限り、個々に合わせた入浴支援を行っている。入浴拒否に対しては無理強いせず、柔軟に対応している。	入浴の拒否が見られた時は無理に勧めず、声かけを工夫したり、時間を置いて対応している他、通院で帰りが遅くなった時等も、別の日に入浴する等、柔軟に対応し、一人週2回は入浴できるようにしている。また、1対1の介助を基本としているが、立位・歩行が不安定だったり、浴槽のまがきが困難な場合は、職員二人で介助し、安心して入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に過ごし、夜間は安眠できるよう、個々の状況に応じて支援している。不眠時には話を傾聴したり、医師と相談のもと、眠剤の服用等について調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬状況を把握し、飲み忘れや誤薬のないよう、体制を整えている。処方内容の変更があった場合は全職員間に周知し、服薬による状態変化は記録に残して、ご家族や医師に報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人やご家族からの情報を基に、生活歴から趣味、嗜好を考慮した上で、手伝いや趣味活動を行い、役割や生きがいを持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出を控え、病院受診以外の外出はできていないが、天気の良い日には散歩を兼ねてホームの敷地内を歩き、気分転換を図っている。 コロナ禍も落ち着き、今後は買い物やドライブ等の外出を増やしたいと思う。	天気の良い日は敷地内を散歩したり、法人の畑を見に行く等している他、希望があれば車に乗って、自宅の近くまで行く等、利用者の気分転換を図っている。コロナ禍により、外出行事を計画することが難しい状況が続いているが、その時々状況に応じて、車に乗ったままのドライブを楽しんだり、通院の帰りに買い物を楽しむ等、できる範囲で工夫をしながら支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力量に応じて、多くない金額を所持し、自由に使えるようにしている。自己管理が困難な方はホームで管理し、希望時に職員が代行する等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話の取り次ぎや手紙の支援をしている。遠方のご家族には定期的に電話をし、近況を報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に草花等を飾ったり、写真や手作りの工作物を飾る等、心温まる空間を提供している。	天窓からも陽射しが入り、ホームは全体的に明るく、テレビの音量も会話の邪魔にならないように調整されている。玄関ドアには、季節に合わせた手作りの装飾が施されている他、各居室の入口には、それぞれが職員の力を借りながら手作りした、個性的な作品が飾られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテーブルや椅子、ソファ等を設置し、希望に応じてテーブルや椅子の位置を変える等の配慮をしている。一人あるいは入居者同士で話せる環境作りも行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や馴染みの家具、愛用品を持ち込み、心地良く過ごすことができるように努めている。	入居する際、自宅で使っていた物をそのまま持って来ていただくよう、家族に働きかけている。居室にはタンスや衣装ケース、テレビ等その他、お気に入りの人形や家族写真等、たくさんの物が持ち込まれている。また、持ち込みが少ない場合は、利用者がその人らしく、穏やかに過ごせるよう、担当職員が利用者と一緒に居室作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全のため、ホーム内はバリアフリーとなっており、廊下・トイレ・浴室には手摺りを設置している。居室やトイレの場所がわかるよう、目印等で工夫している。		